

平成23年2月8日（火）

**平成23年3月期  
第3四半期  
決算概要**

**株式会社 カネカ**

もっと、驚く、みらいへ。

**KANEKA**

**1. 業績概要** （平成 23 年 3 月期 第 3 四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 2 参照）

（単位：億円）

	22年3月期 第3四半期累計	23年3月期 第3四半期累計	増減額	前回発表 通期予想
売上高	3,068	3,395	328	4,500
営業利益	134	170	36	230
経常利益	125	172	47	210
四半期純利益	71	104	33	110
為替レート（円/US\$）	93.61円	86.84円		
為替レート（円/EUR）	133.03円	113.27円		
国産ナフサ（円/KL）	39,000円	45,900円		

- ◎ 売上高は前年同四半期累計に対し328億円・10.7%の増収となりました。
- ◎ 利益は前年同四半期累計に対して営業利益で36億円・26.9%、経常利益で47億円・37.3%、四半期純利益で33億円・46.3%の、それぞれ増益となりました。
- ◎ 為替は対ドル、ユーロともに円高となり、前年同四半期累計に対して売上高で△94億円、営業利益で△32億円の影響がありました。

## 2. 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	22年3月期 第3四半期累計	23年3月期 第3四半期累計	増減額	22年3月期 第3四半期累計	23年3月期 第3四半期累計	増減額
化成品	57,954	63,741	5,787	992	1,762	770
機能性樹脂	45,548	51,822	6,274	7,131	6,214	△ 917
発泡樹脂製品	41,181	45,226	4,045	4,233	5,175	942
食品	90,487	92,974	2,486	6,807	6,351	△ 456
ライフサイエンス	27,349	34,594	7,244	2,837	6,330	3,493
エレクトロニクス	27,300	30,325	3,025	△4,786	△3,761	1,024
合成繊維、その他	16,931	20,848	3,917	1,248	947	△ 300
調整額	—	—	—	△5,072	△6,028	△ 955
計	306,752	339,533	32,781	13,392	16,992	3,600

※23年3月期第1四半期より、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前年同四半期累計はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。

- ◎ 売上高は7セグメント全てが増収となりました。営業利益では化成品、発泡樹脂製品、ライフサイエンス、エレクトロニクスの4セグメントが増益ないし営業損失が減少、それ以外の3セグメントは減益となりました。
- ◎ 当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。
  - ・ 化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内及びアジア市場の需要回復を背景に販売数量が堅調に推移した一方、原燃料価格上昇に対応した販売価格の修正にも注力しました。塩ビ系特殊樹脂は、販売数量が増加し、販売価格の修正に加えコストダウン等も寄与しました。か性ソーダは、国内市場の需要が回復傾向となりましたが、海外市況は低迷しました。以上の結果、当セグメントの売上高は63,741百万円と前年同四半期累計と比べ5,787百万円（10.0%増）の増収となり、営業利益は1,762百万円と前年同四半期累計と比べ770百万円の増益となりました。

- ・ **機能性樹脂事業**

モディファイヤーは、アジア及び欧米市場の需要回復により販売数量が増加し、製品差別化力の向上及びコストダウンにも努めましたが、原燃料価格の上昇及び円高の影響を強く受けました。変成シリコンポリマーは、日本及び欧米市場の販売数量が増加しましたが、同様に原燃料価格の上昇及び円高の影響を受けました。以上の結果、当セグメントの売上高は 51,822 百万円と前年同四半期累計と比べ 6,274 百万円(13.8%増)の増収となり、営業利益は 6,214 百万円と前年同四半期累計と比べ 917 百万円の減益となりました。

- ・ **発泡樹脂製品事業**

発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産用途の需要が低調に推移しましたが、原燃料価格の上昇に対応した製造コストダウンや経費削減に徹底して取り組みました。押出發泡ポリスチレンボードは、国内の断熱建材用途の需要が拡大し、販売数量が増加しました。ビーズ法発泡ポリオレフィン は、日本・アジア・欧州市場の販売数量が増加しました。以上の結果、当セグメントの売上高は 45,226 百万円と前年同四半期累計と比べ 4,045 百万円(9.8%増)の増収となり、営業利益は 5,175 百万円と前年同四半期累計と比べ 942 百万円の増益となりました。

- ・ **食品事業**

食品は、消費者の節約・低価格志向を背景に需要が伸び悩む中で、新製品拡販などにより販売数量が増加し、コストダウン等による収益確保にも注力しましたが、競争激化に伴う販売価格の下落の影響を受けました。以上の結果、当セグメントの売上高は 92,974 百万円と前年同四半期累計と比べ 2,486 百万円(2.7%増)の増収となり、営業利益は 6,351 百万円と前年同四半期累計と比べ 456 百万円の減益となりました。

- ・ **ライフサイエンス事業**

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大しました。医薬バルク・中間体は、販売数量増加に加え、Eurogentec S.A.の株式を新たに取得し連結の範囲に含めたことにより、売上高が増加しました。機能性食品素材は、日本・北米・欧州で高機能品の販売数量が着実に増加すると同時に、コストダウンにも注力しました。以上の結果、当セグメントの売上高は 34,594 百万円と前年同四半期累計と比べ 7,244 百万円(26.5%増)の増収、営業利益は 6,330 百万円と前年同四半期累計と比べ 3,493 百万円の増益となりました。

- ・ **エレクトロニクス事業**

液晶関連製品は、販売数量が低調に推移したものの、超耐熱性ポリイミドフィルムは、携帯電話用途などの需要拡大に伴い販売数量が増加しました。太陽電池は、国内の販売数量は増加しましたが、欧州市場は競争の激化に伴い販売数量が減少したうえ、販売価格も下落しました。以上の結果、当セグメントの売上高は 30,325 百万円と前年同四半期累計と比べ 3,025 百万円（11.1%増）の増収、営業損失は 3,761 百万円と前年同四半期累計と比べ 1,024 百万円減少しました。

- ・ **合成繊維、その他事業**

合成繊維は、海外需要の回復により販売数量が増加し、高付加価値品の増販やコストダウンによる収益確保に努めましたが、円高及び原燃料価格の上昇の影響を強く受けました。以上の結果、当セグメントの売上高は 20,848 百万円と前年同四半期累計と比べ 3,917 百万円（23.1%増）の増収、営業利益は 947 百万円と前年同四半期累計と比べ 300 百万円の減益となりました。

### 3. 海外売上高の状況

（単位：億円）

	22年3月期 第3四半期累計	23年3月期 第3四半期累計	増減額	増減率
アジア	436	519	84	+19.2%
北米	169	218	49	+29.2%
欧州	265	319	55	+20.6%
その他	112	132	20	+18.0%
海外売上高計 (海外売上高比率)	982 (32.0%)	1,189 (35.0%)	208	+21.2%

- ◎ 中国をはじめとするアジア圏の景気回復に伴い、アジアの売上高が増加、欧米についても需要が回復基調となりモディファイヤーなどの販売が拡大、全地域で増収となりました。海外売上高は前年同四半期累計に対して 208 億円増加し、海外売上高比率も前年同四半期累計 32.0%に対して 35.0%と上昇しました。

## 4. 連結貸借対照表

(平成 23 年 3 月期 第 3 四半期決算短信【添付資料】P. 6・7 参照)

(単位：億円)

		22年3月期末	23年3月期 第3四半期末	増減額
資産	流動資産	2,081	2,208	127
	固定資産等	2,247	2,299	51
	合計	4,329	4,507	178
負債	有利子負債	636	652	16
	その他	1,121	1,282	160
	合計	1,757	1,933	176
純資産	自己資本	2,494	2,487	△7
	少数株主持分 他	78	87	9
	合計	2,572	2,573	2
負債、純資産 合計		4,329	4,507	178
D/Eレシオ		0.25	0.26	

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

- ◎ 総資産は、主として連結の範囲の変更に伴い、前連結会計年度末に比べ178億円増加し、4,507億円となりました。
- ◎ 有利子負債残高は、16億円増加し652億円となりました。
- ◎ 純資産は、主として利益剰余金の増加と、為替換算調整勘定の減少により、前連結会計年度末並の2,573億円となりました。

**5. 連結キャッシュ・フロー計算書**（平成 23 年 3 月期 第 3 四半期決算短信【添付資料】P. 9・10 参照）

（単位：億円）

	22年3月期 第3四半期累計	23年3月期 第3四半期累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	396	258	△ 138
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 193	△ 236	△ 43
フリー・キャッシュ・フロー	203	21	△ 181
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 163	△ 52	110
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	44	△ 32	△ 76
現金及び現金同等物の四半期末残高	297	373	76

- ◎ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等によりプラス 258 億円、投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得や子会社株式の取得による支出等によりマイナス 236 億円、財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金支払等によりマイナス 52 億円となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第 3 四半期連結会計期間末残高は、373 億円となりました。

6. 業績予想 (平成23年3月期 第3四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 3参照)

前回発表予想		(単位：億円)		
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期	4,500	230	210	110

- ◎ 当第3四半期連結累計期間の事業環境は、アジア市場の需要拡大及び欧米市場の需要回復を中心に改善が進んだものの、足元の経済情勢は、円高、日本の景気回復の停滞、原燃料価格の高騰、欧米や新興国の景気減速懸念など、不透明感が拭えない状況にあります。このような状況をふまえ、当社グループは、引き続き各事業において、販売数量増大のための施策及び製造コストや経費削減等の収益確保策に徹底して取り組んでまいります。
- なお、通期の連結業績予想につきましては、変更しておりません。

以 上

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。